

教科	国語	科目	文学・古典	担当	
履修学年	2年	単位数	3	履修区分	普通科理系
教科書	精選文学国語（三省堂）、精選古典探究古文編・漢文編（東京書籍）				
副教材等	状況に応じて適宜使用する				

1 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
--

2 学習評価

評価の観点		科目の評価の観点的趣旨
a	知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
b	思考・判断・表現	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
c	主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 全体計画

期	月	内容の まとめ	単元 (題材)	項目 (学習内容)	評価の観点			単元の評価規準	評価方法	
					a	b	c			
前 期	4	詩	近体詩一八首	唐詩の鑑賞を通して、言語感覚や想像力を豊かにする。	○	○	○	a・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 b・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているもの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 c 進んでさまざまな唐詩を読み味わい、学習課題に沿って、言語感覚や想像力を豊かにしようとしている。	・小テスト ・音読 ・課題取組状況 ・定期考査 ・ノート	
			日本の漢詩一二首	日本人が作った漢詩の鑑賞を通して、言語感覚や想像力を豊かにする。	○	○	○			
		歌物語	歌物語の特色に注意しながら、作品に表れているもの見方、感じ方、考え方を読み取る。	○	○	○				
		小説の言葉・詩の言葉	詩はいつでも近いところにある	詩の言葉の特徴を理解する	○	○	○			
	前期中間考査									
	5	6	思想	儒家の思想	思想の異なる三人の儒家の文章を読み、各テーマに対する共通点や相違点を文章にまとめる。	○	○	○	a・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 b・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているもの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 c 進んでさまざまな唐詩を読み味わい、学習課題に沿って、言語感覚や想像力を豊かにしようとしている。	・小テスト ・音読 ・課題取組状況 ・定期考査 ・ノート
			随筆	枕草子	随筆の内容を自分と関係づけながら、もの見方、感じ方、考え方を広げる。	○	○	○		
		9	小説	山月記	会話と地の文の関係に着目して、人物像を把握する。	○	○	○		
	前期末考査									

期	月	内容の まとめ	単元 (題材)	項目 (学習内容)	評価の観点			単元の評価規準	評価方法	
					a	b	c			
後 期	9	思想	道家の思想	思想の異なる二人の道家の文章を読み、人間を巡るさまざまな思想を読み取る。	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・音読 ・課題取組状況 ・定期考査 ・ノート 	
		随筆	方丈記 徒然草	表現の特色に注意しながら、随筆に表れている作者の考えを的確に捉える。 随筆に表れている作者の主張を読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を深める。	○	○	○			
	11	小説	こころ	小説の形式や表現の特色に留意して、登場人物の言動や心情を理解する	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 ・語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するもの見方、感じ方、考え方を深めている。 ・進んで、文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深め、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して内容を解釈しようとしている。 		
		後期中間考査								
	5	11	史記	項羽 劉邦	『史記』を読み、項羽の生き方を通して人間のあり方について関心を深め、調べて発表する。 『史記』を読み、劉邦の生き方を通して人間のあり方について関心を深める。	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 	
			作り物語	源氏物語	他の作品や絵との関係も踏まえながら、作り物語の内容を的確に読み取る。	○	○	○		
3		小説	こころ	小説の形式や表現の特色に留意して、登場人物の言動や心情を理解する	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 ・語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するもの見方、感じ方、考え方を深めている。 ・進んで、文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深め、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して内容を解釈しようとしている。 		
後期末考査										

4 評点の観点別配点(考査以外も含む合計)

	前期中間	前期末	後期中間	後期末
a	40	40	40	40
b	40	40	40	40
c	20	20	20	20
計	100	100	100	100

5 授業や課題等に取り組む上での留意点

- ①本文を熟読し、安易に他者を頼らず、自力で自らの能力を伸ばすよう取り組むこと。
- ②課題、演習問題に丁寧にじっくりと取り組むこと。
- ③句法等、文法知識を習得できるように努めること。
- ④提出物の期限を厳守すること。